

平成19年7月1日
(2007)
第74号
毎月発行
編集
公民館だより編集室
発行
西東京市公民館

西東京市 公民館だより

田無公民館
南町5-6-11
TEL 461-1170
芝久保公民館
芝久保町5-4-48
TEL 461-9825
谷戸公民館
谷戸町1-17-2
TEL 421-3855

保谷公民館
柳沢1-15-1
TEL 464-8211
住吉公民館
住吉町6-1-25
TEL 421-1125
ひばりが丘公民館
ひばりが丘2-3-4
TEL 424-3011

公民館の再発見 —今の時代に、地域に必要な 拠りどころ

さまざまな情勢を背景に、今、公民館の役割をどのようにとらえたいのでしょうか。社会教育の現代的意義はどこにあるのでしょうか。公民館運営審議会委員で社会教育研究者の上田幸夫さんに、原稿を寄せていただきました。

上田 幸夫

私の住み慣れた街に長く続いた小さな飲み屋が、店をたたおことになりました。店主は87歳という高齢の女性でしたが、料理、もてなしは上等で、多くの客に親しまれてきました。けれども、閉店で客との関係は途絶え、仕事一途に人生を歩み続けてきたその女性のもとには、こくわすかな蓄え以外に何も残っておりませんでした。そのうえ、身寄りがなく、途方に暮れてしまいました。

仕事一途の人生であったその女性は、店以外のことは無頓着で、役所など公共機関を活用する術は、ほとんどもっていません。長い年月、税金を払い続けていても、公共サービスを享受することなど、考えもしなかったのです。地域の人たちのつきあいのなかで、こうした社会生活上の知恵や技術の乏しい人が、少なくないのではないかと思ひ知らされていきます。身寄りがないその女性に馴染みの私は、相談を受けることになりました。そして、一緒に考えて、打開策を探りあげました。それこそ小さな、小さな人のかかわりですが、そこには「共同学習」が生まれているともいえます。90近いその方には、新

しい発見がいっつもあり、また、その人の生き方から、私も学ぶことが少なくありませんでした。公民館には、そういう関係づくりを形成していく大事な役割があります。またそれをおして、公民館は生活課題の解決を図っていくうえで必要な知恵と工夫を身につける機会を提供しているのです。こう考えれば、相談に乗って考えあつた私の位置こそ、公民館職員の役割ということになります。

公民館では、生活上の問題を解決していくために必要な知恵や技術を身につけていくために人間関係を広げていく取り組みが展開されています。そして、こういう公民館の基本的な役割は、公民館が誕生したころから明確に位置づけられていました。

☆

公民館が誕生した60年ほど前、その普及を図るため、文字通り「公民館の歌」という歌が作られました。歌詞が公募され、最優秀の作品に曲がつけられて、公民館の役割を全国に普及しようとしたわけです。その歌詞のなかには、「公民館のついでいからとけあつ心なげやかに」とか、「公民館のついでいから希望を胸に美しい」、あるいは「公民館の

ついでいからまじいになごむひととき」という歌詞があります。つまり、公民館の役割を「ついでい」というように、簡潔な表現で伝えています。「ついでい」とも、「この歌は「平和の春にあたらしく郷土を興すよるこび」というように、平和を希求する新日本建設の原動力として登場してきたことがうかがえます。

☆

公民館の誕生と同じ時期、憲法が公布され、その普及・定着の基本に教育の力が期待されたように、公民館への期待は大きいものがありました。憲法を生かすために、大きな役割を担うことになっていくのです。つまり、地域の人々の「ついでい」をおして、「公民(Citizen)」、すなわち市民的教養、あるいは政治的教養を身につけていく気概が目指されたのです。

公民館を提唱した当時の文部省の寺中作雄が公民館の建設を推奨して、「まさに民主主義の基盤の上に、平和国家・文化国家として立つこと、それを除いては日本の起き上がるべき方途はない。だがわれわれは連合国から迫られてやむを得ず文化国家

保谷公民館

ムービールーム柳沢

ところ 保谷公民館
申込 当日、上映30分前から受付をします。直接視聴覚室までお越し下さい。上映時間前のお入場にご協力をお願いします。
定員 100人(先着順)

「小さな中国のお針子」

(2002年)
7月11日(水) 14時~(110分)
監督・脚本・原作：ダイ・シージェ

「山の郵便配達」

(2001年)
7月27日(金) 19時~(93分)
監督：フォ・ジェンチイ
脚本：ス・ウ
原作：ポン・ジェンミン

(仮称)保谷駅前公民館・図書館 利用者懇談会を開催します。

- 8月4日(土) 18時30分~20時30分
住吉公民館3階集会室
- 8月11日(土) 10時~正午
下保谷図書館2階集会室
- ▼お問い合わせ
保谷公民館 ☎464-8211
中央図書館 ☎465-0823

サークル訪問 ~木彫りの会~

昼下がりの保谷公民館の工作室。所狭しとばかりに置かれた木彫りの作品が取材陣を迎えこんでくれました。

スワンをかたどった本立て、豪華なランプスタンド、愛らしい顔を小さなお地蔵さん達の中には美術館にも飾られていそうな翁像や役行者像もあります。どれも素人の手によるものとは思えない本格的な物。会員の人がこの日のためにわざわざ持参してくれた自作の数々です。この会は発足して30年目を迎えます。現在会員は女性6人男性2人の計8人。保谷公民館で毎週水曜日の午後活動しています。

木彫りは、まず「木を見る」事から始まります。その木の特性や個性に合わせて出来上がりイメージしていきます。その後、作品のデザインをカーボン紙などで木に写し取り、彫刻刀やノミで形作っていくのです。

道端に無造作に積まれている木でも見過ごすことはできません。木片を見つけては、「いい」とどんな物が出るかしら」と思いを巡らせてしまいます。その魅力について尋ねました。「彫っている時は何も考えず、昼間のいやなことを忘れてしまおう。無我夢中になれる」「作りたいたいと思ったものを作り



上げた時の達成感と満足感がたまらない」と口々に語ります。苦勞の末、出来上がった作品は愛おしく、とても手放す気持ちにはならないと言います。



製作中の現場は終始和やかでにぎやか。冗談も飛び交い笑い声が絶えません。それとは対照的に作品を見つめる目は真剣で彫刻刀を握る手は力強く一定のリズムを保っています。

会員の一人がふと手を止めて迷っていると、同じく会員の小林さんがさりげなくアドバイスをします。プロ並の腕前の小林さんは会のアドバイザー的な存在。この会では現在は講師を置かず、会員同士が相談し合いながら作品を仕上げていきます。「木」への熱い想いと会員同士の楽しいおしゃべり、そんなところにも会が長く続いてきた秘訣があるのかもしれない。

連絡先 柴田 ☎463-0185